

営 農 情 報

平成 28 年 12 月

頑張るあなたの農業をJAグループが応援します！

農機具等購入応援事業

農機具等購入応援事業とは、地域の農業を応援するために、農機具等にかかる購入費用の一部を助成する事業です。

募集期間 平成29年1月10日(火)～平成29年1月31日(火)

対象者 個人の認定農業者、集落営農、農業法人、JA出資法人等

ただし、行政の補助事業の対象者(同一農機への上乗せ助成)ならびに行政、大企業および行政・大企業が出資する法人は除きます。

※大企業とは、中小企業基本法上の「中小企業」以外の企業です。大企業の出資法人とは、大企業が「筆頭株主」または「出資比率20%以上」となっている法人です。

募集期間 以下の要件を満たす生産者

品目	要件① 規模要件	要件②
稲作生産者	米(転作作物を含む)の作付面積が10ha以上で、生産数量目標を順守していること。	1割以上の生産面積拡大計画又は、新たなコスト低減に向けた取り組みがあること。
野菜生産者	野菜の作付面積が2ha以上又は、販売金額が20百万円以上を超えていること。	1割以上の生産面積拡大計画又は、新たなコスト低減に向けた取り組みがあること。
花卉・果樹生産者	花卉・果樹の作付面積が50a以上又は、販売金額が20百万円以上を超えていること。	1割以上の生産面積拡大計画又は、新たなコスト低減に向けた取り組みがあること。
乳用牛生産者	乳用牛を40頭以上飼育していること。	5年後の増頭計画があること。
肉用牛生産者	肉用牛を23頭以上飼育していること。	5年後の増頭計画があること。
養豚生産者	養豚を204頭以上飼育していること。	5年後の増頭計画があること。

助成額 ○組合員 本体価格(税抜)の20%相当額(上限200万円)

○その他 本体価格(税抜)の10%相当額(上限100万円)

助成総額には上限があります。そのため、上限を超える多数の申請を受け付けた場合は、審査会にて事業対象者を決定します。助成が受けられないこともありますので、十分ご理解いただいたうえで、申請願います。



1. 本事業は農機具等購入時に本体価格の全額をご負担いただき、後日上記助成額を助成させていただく仕組みの事業です。
助成金支払時期は農機具等購入年度の翌年度8月末となります。
(例) 平成29年5月に農機具等を購入した場合、助成金の入金は平成30年8月末となります。
2. 本事業は、行政が実施する補助事業ではありませんのでご注意ください(「圧縮記帳」はできません)。
税務上の取扱いにつきましては、個別に税理士等にご相談ください。

お問い合わせは、JAいわて平泉営農振興課(☎23-9176) 農業機械課(☎23-4204) 畜産課(☎75-3313)

畜舎内換気と保温対策

寒くなると保温のため牛舎を閉じがちになりますが、畜舎内のアンモニアやほこり、湿気除去のためには換気が必要です。

◎乳牛

成牛は寒さへの適応性は比較的高いですが、低温時には熱エネルギー源として乾物10～20%を増給することが推奨されています。一方、子牛は寒さにとても弱く、生後1カ月までは特に保温が必要です。敷料が湿っていると体温が奪われて肺炎や下痢などを起こしやすくなりますし、牛床が湿っていると病原菌が増加し、乳房炎や蹄疾患の発生につながります。また、乳牛は1日に30～100ℓの水を飲みますので給水管の凍結防止策も重要です。

◎肉用牛

肉用成牛は低温への適応力は高いので、寒さを気にしないで換気をしっかり行ってください。ただし、牛体に風が直接当たると体感温度を下げ、下痢や肺炎などの誘因となりますので気をつけましょう。牛床が湿っていると腹部から体温が奪われるので注意が必要です。一方、子牛は低温には弱く、特に新生子牛では被毛と皮下脂肪が少なく、寒冷ストレスに敏感で肺炎や下痢などにかかりやすくなります。子牛が生まれたら体をタオルで拭き早く乾燥させる、初乳を確実に飲ませる、敷料を十分に用いて子牛の腹を冷やさない、保温ジャケットや保温ランプを使用するといった対策が効果的です。保温ジャケットや保温ランプにつきましてはJA各営農経済センターまたは畜産課までお問い合わせください。

生産資材
ひろば